

粟生線活性化知恵絞る

三木北高2年、地域交通の未来議論



神戸電鉄の担当者の講演を聞く三木北高校の生徒たち。三木市志染町青山6

授業で防災、子育て…テーマごと 2カ年計画、成果を来年発表へ

高校生が思い描く、地域交通の未来とは。三木北高校(三木市志染町青山6)の2年生が、神戸電鉄粟生線の活性化について考える授業に取り組んでいる。防災や子育て、伝統文化などのテーマごとに分かれて議論を進める。2カ年計画で、来年に成果を発表する予定。

同校の「総合的な探究の時間」の授業の一環。神戸電鉄、神戸電鉄粟生線活性化協議会、関西国際大学が協力する。

4日には、神鉄鉄道事業本部技術部の能崎貴史さんの基調講演が同校であった。同社や粟生線の沿革な

どを語り、鉄道を取り巻く状況について説明した。

高度経済成長期、神戸都市圏は拡大して神鉄沿線は人口が増加。神鉄に乗る人も増え「ローカル鉄道から都市鉄道へと変化」したと能崎さんは語った。だが、近年は利用者の減少が続いている。能崎さんは、ニュータウンの高齢化や若年世帯の流出による通学・通勤需要の減少、マイカーなど他の交通手段への転換が進んだことを理由として挙げた。

仮に地域鉄道がなくなつたとすると、バスによる代替輸送が行われたとしても、鉄道からバスに転換する人は約4割にとどまるとみられ、負のスパイラルに陥り地域公共交通が消滅する一と指摘。土地や家の資産価値低下、不便さにより人口流出に拍車がかかるとした。

生徒たちは今後、テーマに沿ってグループごとに検討を重ね、活性化に向けた企画を立案。校内でプレゼンテーションを行い、実際に取り組む企画を選定し、

実施する計画という。
授業は来年7月までで、学年持ち上がりで継続的に取り組む予定。通学で粟生線を利用しているという中
井千尋さん(17)は「粟生線がなくなったら困る。できることは協力できるように、若い力で考えたい」と話していた。(長沢伸一)